

## 2022年度第1回 開志専門職大学 事業創造学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時：2022年12月5日（月）10：00～12:00
2. 会 場：開志専門職大学 紫竹山キャンパス 7階会議室  
(オンラインでの参加者は Teams にて参加)
3. 出席者：徳田賢二委員長、向正道委員、唐木宏一 委員、武田修美 委員、田中豊 委員（オンライン）  
誌上参加：内藤晃子 委員  
事務局：遠田孝之 学務部課長兼社会連携推進課課長、今井泰子  
欠席者：葉尊正幸 委員

### 4. 議 事：

#### ●徳田委員長より挨拶

今回の教育課程連携協議会は特に完成年度を控えての重要な機会となる。皆さまからの貴重な意見を賜りたい。

カリキュラム改訂については、設置基準を順守して行っていくことはもちろんだが、新しいカリキュラムを作っていくために柔軟に対応できるところは文科省に相談をしながら進めている。ディプロマポリシーなど三ポリシーについては変更なくやっていく。

今回のカリキュラム改訂は2点大きなポイントがある。コース変更を行っていくことが1点目の大きな変更点・ポイント。現在のカリキュラムをどのように変更をしていくかを検討している。

2点目は臨地実務実習をどう運営していくか、教職員の負担をどう改善していくか、企業も含めて検討を行っている。

委員の先生方からは様々な方面からご意見を頂きたい。

#### (1) 2021年度 教育課程に関する報告と質疑応答

#### (2) 2022年度 第1・2学期 教育課程に関する報告と質疑応答

#### ●学生状況報告（事務局 遠田）

・全学年在籍：170名 ・1年生：62名 ・2年生：49名 ・3年生：59名

→募集・退学抑止ともに苦戦をしている状況である。

・今年度入学者：62名（県外生は約25%）

・今年度退学者：現時点で2名。

→主な要因は精神的な疾患。現在休学中の学生も含め、入学前から抱えている疾患もあるが、入学後に発症したケースもある。

→モチベーション低下については、入学者の多くが偏差値だけで学校選択をし、なかなか学校の特性・メ

リットが認識されないままの入学となっていることから、入学後のミスマッチが大きな理由。

・除籍者：1名

→学費未納が理由。

#### ●事業創造学部運営報告【2021】(事務局 遠田) 【資料2】【資料3】

・2021年度は学生に多くの外部の方のお話を聞かせるための取り組みとして、「土曜講座」、「開志コラボセミナー」など年間を通して多く開催。

・4月に2020年度には実施できなかった入学式を開催。

・9月に履修モデル・キャリアセンター説明会を実施。第3学期よりキャリアセンターを開設した。

・10月に第1回大学祭・保護者会開催。

・11月にビジネスアイデアコンテスト開催。これに出場した学生のうち数名はすでに起業し、事業を開始している。

・11月キャリアセンターイベント「プレ就活スタートアップ講座」を実施。以降、随時情報発信をおこなっている。

・1月冬休み明けからは、クラスター発生防止のため、1週間の健康観察期間を経て、オンラインにて年度末まで授業を実施。

・1月に日本政策金融公庫との調印式を実施。

#### (2) 2022年度 第1・2学期 教育課程に関する報告と質疑応答【資料4】【資料5】

・4月 入学式を開催。

・4月より、2022年度からの大きな取組として、学習支援センター主催でTOEIC講座を開始。その後、9月に簿記講座、office講座を開始した。

・5月～キャリアセンター主催イベントを定期開催し、就職活動準備をうながす取り組みを行った。

・2022年度は土曜講座は廃止したが、開志コラボセミナーは引続き開催、3年次開講の授業の中でも数多くのゲスト講師の方に講義を行って頂いている。

・8月～企業内実習Ⅲ(3年次後期開講科目)が開始し、今年度は5科目の臨地実務実習が開講されている。当初の予定よりも多くの企業にご協力を頂いての実施となった。

・10月 第2回の大学祭開催(外部一般からの来場も100名の定員を設けて開催)来場者約430人、前年比1.4倍となった。

#### ●臨地実務実習受け入れ企業について(事務局 遠田) 【資料6】

現状、82社にご協力頂いている。

当初は40社程度でNSGグループ内企業を中心に行う予定だったが、学生からの意向も踏まえ、グループ外・県外企業も今年度は実習受け入れをして頂いている。県外企業は3社が夏休み中に集中講座として実施して頂いている。様々な問題もあったが、次年度も継続して実施できると事務局としては判断をしている。また、県外企業を含めて今後も実習先企業を開拓していく必要があると感じている。

82社の中には今年度限りの企業もあるため、毎年、全体の2割程度の新規開拓が必要になる。

●キャリアセンターイベントについて（事務局 遠田） 【資料7】

就職活動における学生の悩みとしては何をしたらいいかわからないということも多い。様々なツールで学生へ周知・参加を促しているが、なかなか動きが悪い学生もいる。

中には3年生になり、積極的にイベント参加・活動をして、すでに内々定を頂いている学生もいる。

今後も学生の就職活動をいかにして促していけるかが今後の課題である。

<質疑応答>

●田中委員

民間企業就職希望（78%）が多くの割合を占めているように感じる。

大企業も含めて、企業内起業を進めているところが多い現状がある。ニュービジネス協議会の中でも促進する企業が多くなっている。そのため、民間就職を希望する学生たちが社内ベンチャーを興せる人材であると企業側へアピールできると、企業としても欲しい人材がいる大学となるのではないか。

そのために、科目名を「〇〇デザイン」などではなく、“社内ベンチャー”・“企業内ベンチャー”“イントレプレナー”などの表現を使って、企業内起業をおこせる勉強をしていることが大学としてコマースになるといいのではないかと思う。

●徳田委員長

大変重要なお指摘を頂いた。これまでの実績を見ると、純粋に起業する学生は少数。大多数は民間就職を目指すので、企業内で新規事業をおこせるような人材育成は大変重要だと感じている。田中社長がおっしゃったように、たとえ就職をしたとしても、新しいプロジェクトを立ち上げられるような人材育成は重要な点だと感じている。貴重な視点の意見を頂いたと思う。

●事務局 遠田

現状、民間就職希望者が多数を占めている。少数ではあるが、公務員・進学などの志望がいる。また、5名が起業希望。内3名はすでに起業している。2名が起業準備中。

昨今の今頃には起業希望は15名ほどいたが、活動を進めていくなかで志望が変わってきている学生も多い。民間就職志望の学生の中には、企業内起業に興味がある学生、就職と起業の両方を検討している学生もいる。現在積極的に活動をしているのは30%ほど。43%程度はまだ積極的な動きはないが徐々に進めている学生がいる。就職活動に対して動きがない・関心がない学生も25%ほどいる。

●田中委員

「土曜講座」は題材がきまっているのではなく、講師が自由にテーマを決めて話す講座なのか。

●事務局 遠田

学長からの発案で、出来るだけ多くの外部の方のお話を聞かせるようにとのことで本学学生を対象に企画されたもの。講師と随時日程調整を行って年間7回程度の開催をした。

内容については学生に向けてということ念頭に置いて頂いて、様々な見地から講師の方にテーマを考えて頂くようにしていた。学生のこれからのキャリアに役立つようなお話を頂いた。

ただし、実際には土曜日に開催をして、任意参加ということもあり動員が苦戦をしていた。その

ため、2022年度は一旦廃止をして、新しい形を模索している状況。

### (3)完成年度以降のカリキュラム改定進捗状況報告と質疑応答

#### ●事務局 遠田

徳田委員長からの挨拶にもあった通り、今回の連携協議会では、カリキュラム改定についてのご意見を頂いて、今後反映をさせていくことが大きな目的でもある。ぜひ、忌憚のない意見を頂戴したい。

#### ●新カリキュラム編成検討状況（事務局 遠田） 【資料 11】

・カリキュラム改定のスケジュールについて

完成年度以降のカリキュラム改定に向けて、9月に「カリキュラム検討 TF」（教員5名、事務局職員2名）を発足。2週間に1回程度の頻度で検討会を開催している。

様々な意見の中から徐々に改定方針を決定していき、毎月開催されている事業創造学部教員意見交換会においても報告・意見の集約を行ってきた。

今回の12月開催の教育課程連携協議会でも意見を頂き、1月～3月に行う大学の新年度パンフレット作成に間に合うよう進めている。

#### □新旧カリキュラム対応 検討のポイント

##### ①【条件面】

- ・3ポリシーの変更はせず、学生に不利益のない範囲で変更をおこなっていく。
- ・科目名、配当年次、必須／選択、概要、目標については変更が可能と文科省と確認済み。この中でできる範囲で柔軟な対応をしていく。
- ・「経営デザインコース」を新たに設置し、「アントレプレナーコース」と2コース編成にする。

##### ②【学習効果面】

・高校卒業後すぐの学生が大学の授業に柔軟に対応していけるように初年次教育を充実させていく。  
また、退学抑止の面から不安軽減・精神疾患などの早期発見にもつなげていく。実習に向けての基本的なビジネスマナーも学んでいく内容とする。

具体的には基礎ゼミを追加することで学生の主体的な授業参加を促す、また、主体的に自身のキャリアパスを考えられるカリキュラムにする。

・カリキュラム体系図の変更

科目を分類・前後関係を整理する、学年別目標を設定する。

- ・2コースを設置し、分けて学ぶことでより専門的な学びをする
- ・実習を5科目編成から3科目編成へ変更

連続・長期的な実習に変更し、企業の負担減、学習効果の向上を同時に実現していく。

このように変更することで、企業には現在の倍の300時間の実習をお願いすることになる。その中で、学習効果を上げることと同時に企業側にもメリットがある内容にしていく。

・実習につながる授業の追加

実習に出る前の基礎勉強として、ビジネスマナーやレポート作成などの社会人基礎力向上を目指す。学年に応じて必要なスキルを学ぶ。

#### □新カリキュラム全体構成

学年別の到達目標を明確にすることによって、基礎科目・職業専門科目・総合科目・展開科目の4つにわけ、シンプルに考え必要な授業を追加していく

#### □講義・演習、学内実習、臨地実務実習の関係

3科目にするように編成を進めている。1年次後期・2年次後期・3年次後期の開講を予定している。実際に企業へ行く前にビジネスマナーを含め、基礎を指導してから実習へ送り出せるようにする。そのために1・2学期に体系的な学内実習を追加する。その後、3・4学期に臨地実務実習を行うように変更する。

#### ●完成年度以降の臨地実務実習 ヒアリング結果（事務局 遠田） 【資料12】

実習時間が300時間になることについて、現在実習を受け入れて頂いている企業（29社、内NSGグループは9社）にヒアリングを行った。

企業側の負担が増えることを考えると、慎重な意見が多く、肯定が10社、否定が16社、どちらでも可が3社という結果になった。

頂いた意見としては、「大学が時間数を増やす目的や意図に賛同する」、「社員と同等に扱うことは難しい」、「ゼロから学生と作り上げていくという取り組みは難しいのではないか」、「時間が延びることによって、内容が雑になり、教育価値がないものになってしまうのではないか」との意見もあった。

また、企業側の負担を減らすにはどのようなことができたらいいかという質問に対しては、実習内容や実施時期（繁忙期やイベントが開催される時期を選ぶなど）に柔軟性を持たせることで対応は可能になるのではないかという意見もあった。

大学が学生に対して行う指導については、学生が主体性を持って行動できるように指導をして欲しいという意見があった。

その他の意見としては、実習日誌の見直し・実習のゴールを明確に提示してほしい・大学で実習のフレームを作って欲しいなどがあった。

オンラインの活用についても賛否両論の意見が挙がった。

#### ●カリキュラム改定後の臨地実務実習（草案）（事務局 遠田）【資料13】

学務課で作成した草案。

時間内に学内での部分を盛り込むことで事前指導・フォローアップ期間・事後指導を行うことができる。これを行うことで300時間すべてを企業に任せるのではなく、60時間程度は学内で指導を行う時間とすることができる。

## <質疑応答>

### ●向委員

カリキュラム改定について全体をリードさせて頂いています。よろしくお願い致します。

設置基準を踏まえ、4年間で40単位分の実習を行わなくてはならない。現在、学内と臨地を並行して行っているため、学生によっては週3回の実習を行っている。

今回の改定では、学内での実習と臨地での実習の位置づけを変えた。能力などを獲得するのは学内、現場感を獲得する場を臨地としていきたい。このサイクルを4年間で2回回すようにする。臨地の獲得目標として大きく設定しているのは、1年次が基礎、2年次では課題～対策の検討まで、3年次ではそれを事業計画としてまとめること。

本件等に先立ち、8月～9月にかけて、任意参加ではあるが毎週、ほぼ全教員が集まって「どのような人材を育成していくのか？」を議論した。ポイントとしては、「事業創造できるアントレプレナーシップ」という意見が出た。そのため、アントレプレナーとしての教育は必ずやっていく、その上で起業をしていくのか、企業内起業（就職）へ行くのかに分かれる。どのような科目が必要かのマッピングはすでに検討案を提示できるレベルでまとめている。

### ●徳田委員長

今までの教育課程連携協議会で、委員の先生方より、これまでのカリキュラム体系図では実際の学生のステップが見えにくいとのご指摘があり、ずっと考えて来た。

それを踏まえて、各年次でステップを明確にしようという目的を持って新しいカリキュラムの構成を考えた。アントレプレナーシップは本学部の根幹となるものなので、学生にも十分理解させるようにしたい。とはいえ両コースで共通部分が多いので、どちらのコースの学生にも選択必修・選択などで対応し、必要なスキルを学んでもらいたい。

また、実習については、どのような体制で行っていくかは別途カリキュラム以外の問題もあり、検討事項としている。

概ね、期間集中型の実施については多くの企業に賛同を頂いてはいるが、業務面の負荷から各企業によって意見が違うので、すべての企業で実施するには、どのような期間がいいのか、実施形態がいいのかを考えなければいけない。内容については学内で指導していけるところは教員が指導・フォローをしていき、企業側の判断・裁量で行える部分の増加や負担の軽減へ繋げたい。

### ●唐木委員

集中型への変更は効果の面から考えて、支持できる改善策であると思っている。

田中社長からもイントレプレナーが重要であるとのご意見もあり、アントレプレナーとイントレプレナーと対比できるような表記にするのもいいと思う。

学生はどうやって、アントレプレナーと経営デザインをえらんでいくか？また、どのぐらいの規模・人数で配置されていくのか？をお伺いしたい。

### ●向委員

コース名に関しては今後、柔軟に対応して行けると思う。「アントレプレナー」、「イントレプレナー」という言葉は学内の関わっている人には伝わるが、高校生にはわかりづらい言葉になる。そのため、「経営」という言葉を使った。

希望者の人数が不透明なところがある。そのため、コースは人数枠はおそらく設けず、1年次やってみてその後、検討できるようにすることが大事。安易に就職を選択するのではなく、アントレプレナーを増やしていける仕掛けをしていく必要がある。

●唐木委員

臨地実務実習先を2コースで分けるのか？人数制限を設けないということであれば、実習先はコースごとには変えないということになるのか？

●向委員

その点についてはまだ検討中であるが、おそらく分けない。実習の内容的にはイントレプレナー要素が強いものにはなるので、アントレプレナー用の実習先と共通とする設定する。そのうえで、アントレプレナー向けもチャレンジはしてみたいと思う。

●唐木委員

イントレプレナーを学ぶ場が多いと思うが、アントレプレナーへ振っていくかどうか？やっているとすれば、振っていくための考え方を示すためには新たに単位付与する科目を設定するのではなく、実習の事前指導それをやっていくという理解でよいか？

●向委員

両方やる予定でいる。コースを強く意識するのは学内実習、動機付けは事前指導やフォローの中でやっていく必要があると考えている。

●武田委員

事業創造学部の中ではかなり重要なポイントになると思っている。

今年度は授業を持たせてもらって、学生の動きも見ることができた。個人の感想としては、開学してすぐの大学がよくここまでできているなど感じている。改善ばかりでなく、いいことを把握して、続けていくことも大切だと思う。

今年は実習の運営を社員に任せてやってみた。去年は社長自身が2/3の時間を割いて直接指導をする形を取っており、学生の満足度が高かったと感じている。

各社からの意見を聞いて分かったこととして、社長が直接指導することで融通・想像力・決定・判断のようなどころがあると、もしかしたらいいシナジーを生んでいるのかもしれないと感じた。

一方で、雇われている1社員が担当をすると、社内の目や顧客を抱えながらの通常業務がある状態での実習指導をするとどうしても負担が大きくなりがちになると思う。臨地実務実習の中でもさらにすみわけをすることが必要かもしれない。どこまで学校の仕組みをうまく作っても、企業側の事情によってさまざま変わってきてしまう。実習先によって意識・取り組み方が違う。

提案として、実習を受け入れる企業にむけては学校から一度、意識づけをする講演などの場を設けるのはどうか？企業としても活用してもらえるところ（新人教育の場など）を作っていったり、使えるところを一緒に作っていこうという風に一斉に呼びかける場があってもいいのでは？

授業を持たせてもらう中では、“主体性があるか、ないか”という部分を見ると、社会人と比べると当然足りてない部分はあるが、他の大学と比べたら、主体性はとてもあると思っている。

新人教育や新規雇用にも紐づけられることだと思うので、企業側にも活かせることとしていい機会が作れると思う。これだけ大学側が改善をしてくれているのが分かっているので、受け入れる企業側も一緒に参画するような機会があるといいのかなと思う。

●向委員

内部で話していた時に、我々の学生の自主性をしっかり持たなければならないということも意見として挙がっていたので、武田社長にもその部分を見て頂いていたということが分かった。

企業によって、やっている内容にばらつきがあることが分かっている。企業の方へ向けて意識づけというとおこがましい部分もあるが、やってほしいことや学習目標を提示することや、これまでのノウハウが蓄積されてきたことを活かして、いままでの例などを示してビジョンやメリットを伝えられるようにしたいと思う。

●武田委員

受入側として、実習の最初に学生にやりたいことをヒアリングすると、主体性のある学生とそうでない学生によって反応がまちまち。そのため、大学側からその実習を通してのテーマを提示してもらって、その企業におけるテーマに沿った内容をやることもいいのではないかと？テーマは学生からの事前調査でやりたいことを上げてもらい、その中から選ぶのもいいと思う。

●向委員

大学としても、コーディネートをやる機能が必要だと感じている。どのようにできるかは今後検討をしていきたいが、ヒントになるお話を頂けて良かった。

●武田委員

コーディネート業務もお役に立てることがあれば、お受けしたい。会社の業務自体がコーディネート業務をすることが多い。本当は企業も教員が常にいる状態が安心できるのかもしれないが、それが臨地実務実習かという点と違うと思う。そのためにも、コーディネーターが全体を見てバランスを取るといいと思う。

情報学部の場合は、教員が来る頻度がかかなり多かったが、あまり多いと学生も企業もやりづらくなってしまう。

●向委員

コーディネーター機能は、本来は、教員がいいとも思うが、すべての教員がそれを得意とするわけではない。また、集中型にしたい理由の一つが、学生が自主的に動こうとすると時間がかかることが多く、バラバラの曜日で取り組むより、まとまって悩む時間があつた方がいいと思った。

●田中委員

起業したいという5名が本当にやりたいなら、NSGグループ内含めて社長と1対1でつながってメンターのような人を作るのもいいのではないかと。連絡先を交換するなど、将来もつながっていけるような関係づくりをしていき、会社を興していく時に相談相手になってもらう。また、それができるということは他の学校とは違うことができるというポイントにもなり、大学の価値も変わる。ただ、学校の授業とは違う範囲になるので、どこまではいいかは別。

起業をしたい学生にとっては社長・経営者とのつながりはとても貴重なものになると思う。

●向委員

とてもいいアイデアだと思う。卒業生がいる学校はそのようなアルムナイのコミュニティがあるので、そのようなつながりはあり良いと思う。

●田中委員

以前に新卒で自社に入社した社員から、社長がどのような考えで経営をしているのか勉強をする

ため入社をしたと申出があった。現在は退職して1年以上経つが、今も繋がって起業支援をしている。

●徳田委員長

すばらしいご意見をありがとうございます。

教育的な視点から多くの経営者の方の視点からご協力を頂いて感謝している。

ただ、大学側がそのような方々からのご支援・価値を生かし切れていないところがあると感じている。皆さまからの支援をどのような形で生かしていくか、そのシステムを作っていくことが重要な課題だと感じている。

●唐木委員

法人企画部の山本課長から相談を受けて、新カリキュラム改定にあたって、学んだ方がいいとアドバイスをした科目が反映されていることを確認し、着実にすすんでいると感じている。

●向委員

今回の改定の成功ポイントは2つ。

- ・実習時間の変更（期間集中型）が可能かどうか、企業に理解・協力を得られるか。
- ・コース別になった時に、「新規商品開発」の学内実習ができるかどうか。

この2点ができるかどうかのポイントになると考えている。

●徳田委員長

完成年度をふまえて、田中社長もおっしゃっていたが、学生のキャリアパスを円滑に実現させることが重要な視点だと思っている。我々の売りとしては、事業創造力を身につけさせること。アントレプレナー、イントレプレナーのいずれにしても必要。将来の道筋をコース分けをすることによって実現させたい。

中には大学院に行きたいという学生もいる。唐木先生にもご尽力を頂いてその道筋をつけつつある。

新カリキュラムになった際には委員の先生方におっしゃっていただいたことをふんだんに取り込み、他大学とは差別化した特色ある大学にしたいと思っている。

専門職大学としては臨地実務実習がキモ。今回、初めて企業からのヒアリングを行ったが、企業とのコミュニケーションをしっかりとってステレオタイプな実習にならないようにしていきたい。

学長・法人・事務局、また教員とも連携を取りながら全学一体となって取り組んでいきたい。

また今後、具体化したところでさらなるアドバイスを頂けたらと思う。

●事務局 遠田

今後ともお気づきの点がありましたら、事務局までご意見をお寄せ頂きたい。

## 5. 資料

【資料1】教育課程連携協議会 構成員名簿

【資料2】事業創造学部運営報告【2021】

【資料3】開志専門職大学 2021 学事暦

- 【資料4】事業創造学部運営報告【2022】
- 【資料5】開志専門職大学 2022 学事暦
- 【資料6】臨地実務実習受け入れ企業一覧【2020-2022】
- 【資料7】キャリアセンターイベント
- 【資料8】事業創造学部 教育課程等の概要
- 【資料9】事業創造学部 カリキュラム体系図
- 【資料10】事業創造学部 授業科目の概要
- 【資料11】新カリキュラム編成検討状況【概要】
- 【資料12】完成年度以降の臨地実務実習 ヒアリング結果
- 【資料13】カリキュラム改定後の臨地実務実習（草案）

以上